



「診療の際に大切にしているのは、高い技術を提供することと患者さんに納得して帰っていただくことです」。そう話す原准教授は、患者が十分に理解できるようにいぬいな説明を心がけ、一人ひとりの決定権を尊重しつつ治療方針を決めているという。



上原 慎也 教授  
Uehara Shinya  
■専門医  
日本泌尿器科学会泌尿器科専門医

2007年、当時アジアでもっともロボット手術症例の多かったシンガポールに留学し、ロボット手術の技術を習得する。2010年から国内で経験を積み、2016年から川崎医科大学総合医療センターで数多くのロボット手術を手がける。ポリシーは「地域密着型の先進的な医療の提供」。

Urology



時に100本ほどの静脈を切ることもある顕微鏡下低位結紮術。個人差はあるが、時間は約1時間で動脈や神経、精管、リンパ管を傷つけてはならないため、執刀医には高い技術と経験値が求められる。



精索静脈瘤は症状がない人が大半であるため、スクリーニングの検査で初めてわかる場合が多い。

医療最前線

》》vol.86

川崎医科大学総合医療センター  
泌尿器科

原 綾英 准教授  
Hara Ryoei  
■専門医  
日本泌尿器科学会泌尿器科専門医、  
日本生殖医学会生殖医療専門医

Report!

有効性の高い手術療法で、  
男性不妊症の治療に取り組む

経験と研鑽で高めた技術で、多くの患者に光明を。

腎臓・尿管・膀胱・尿道・精巢・前立腺・副腎など、尿路や生殖器に関する疾患を扱う泌尿器科。「地域密着型の先進的な医療の提供を目指す」が当科に在籍する医師は六人。うち五人が日本泌尿器科学会泌尿器科専門医の資格を持っており、どの医師が担当になっても豊富な経験に基づくレベルの高い診療を受けていただけます」と原教授。なかでも前立腺がんの治療では、日本国内におけるロボット手術の先駆的存在である原教授を筆頭に、四人の医師が確かな技術でロボット手術を行なえることから、優れた手術成績を収めている。

また、同院で男性不妊症を専門分野のひとつとする原准教授は次のように話す。「世界保健機関（WHO）の調査では、不妊症カップルの約半分が男性に、あるいは男女両方に原因があるとされています。男性不妊症の多くは精子を作る能力が落ちていたり造精機能障害。原因不明や先天的要因のため治療が難しい場合もありますが、造精機能障害のなかでも代表的疾患である精索静脈瘤については治療が可能です」。精索静脈瘤は、静脈にできた瘤によって精巣上に血液が溜まることで、精巣が腹腔内に近い温度になり、ヒートショックを起こして造精機能が低下する疾患。一般的に治療は手術療法。同科では、静脈・動脈や神経、精管、リンパ管などが束になった直

径一センチほどの精索を露出し、顕微鏡を用いて瘤ができている静脈を切る顕微鏡下低位結紮術を行なっている。原准教授は、医師となった二〇〇二年以来、川崎医科大学附属病院、川崎医科大学総合医療センターで数多くの手術を執刀。実績を積み重ね、より安全、より簡潔な手術法を追い求め、改良した術式を学会でも発表してきた。「多くの経験から手術の有効性を確信しています。また、取り残しが大いなる要因となる再発は三パーセントくらいともされていますが、当院では現在二例もありません」。

同科を受診するカップルは男性も診察・治療に協力的だが、一般的には男性不妊症への抵抗感が受診に踏み切れない男性も少なくないという。「不妊治療は男女揃っての受診が基本。二〇二二年に保険適用にもなりました。当科では精索静脈瘤のほか、地域のクリニックと連携して無精子症の治療にも取り組んでいます。無精子症の治療はこの二〇年間で大きく発達した分野です。患者さんには安心して一歩を踏み出していただきたいですね。そう話す原准教授は「子どもがほしい」という切なる願いをかかえるため、今でも研鑽を重ねている。

お問合せ  
川崎医科大学総合医療センター  
岡山市北区中山下2-6-1  
☎086-265-2111  
https://k.kawasaki-m.ac.jp